

2006 年度

科目名	対象学科・学年 文財 1 回生	担当者
文化財科学Ⅱ（保存科学）		内田 俊秀
授業テーマ 文化財の自然科学的研究と保存方法——その目的、技術と歴史——		
授業の概要と目標 文化財の研究手法は、人文科学的なものの他に自然科学的なものもあります。近年、この自然科学的方法が多くの成果を上げています。貴重な文化財を後世に残そうとする動きも、ユネスコなどを中心に世界各地で活発に行われており、それにも科学的方法は、威力を発揮しています。また、地震などの災害から文化財をまもる動きも活発です。これらの紹介をとおして、研究や保存の意義を知ることを目標とします。		
評価方法 試験		
テキスト なし。その都度コピーを渡します。	著者	出版社
参考書 文化財保存科学ノート 文化財のための保存科学入門	著者 沢田正昭 京都造形芸術大学編	出版社 近未来社 角川書店
授業スケジュール・内容		
1) 文化財保存の考え方-----西洋と日本の考え方-- 2) 出土木製品の保存 3) 出土木製品の保存 4) 出土金属製品の保存 5) 出土金属製品の保存 6) 金属を作る技術 7) 糊と水と刷毛 8) 石の文化財の劣化 9) 石の文化財の保存 10) 煉瓦建造物の保存 11) 外国の保存処理の例 12) 街なみの保存 13) 文化財の防災① 14) 文化財の防災② 15) まとめ 日本は滅びの美学、西洋は今のまま残す 現在の木材との違い 保存処理とは 錆と金属 金属の保存処理 弥生時代から江戸時代まで 日本の伝統的修復技術はシンプル 劣化のメカニズム 磨崖仏は大地とつながっている 明治時代初期の煉瓦建造物の保存 イギリスやイタリアの例 伝統的な街なみ、美しい街なみ 地震から守られた文化財 地震から文化財を守るには 文化財の保存と活用		
以上		